

## 第4章 緑の将来像と基本方針

### (1) 基本理念（案）

呉市は、灰ヶ峰や野呂山をはじめとした山々に囲まれており、二河川や黒瀬川、野呂川などの川の流れが山地から市街地を抜け、穏やかな瀬戸内海へと通じており、山・川・海といった豊かな緑を身近に感じることができる都市です。

また、市街地においては、公園・広場等の整備や地域とともに緑化・美化活動などに取り組み、緑のまちづくりを進めてきました。加えて、豊かな緑や温和な気候の下、柑橘類や牡蠣といった豊富な農水産物に恵まれており、それらを活かしたまちづくりによって経済活動を支えるなど、これまでも豊かな緑と共生してきました。

近年、都市においては、人口減少に対応した持続可能な都市づくりや頻発・激甚化する自然災害、生物多様性の喪失、SDGs への対応など複雑化する課題への対応が求められています。また、デジタル化の進展や価値観の多様化によって、モノの豊かさではなく、心の豊かさが求められるなど、人が中心となることを念頭に置いた都市づくりが求められています。

このような中で、緑は、カーボンニュートラルやネイチャーポジティブといった国際的な目標への対応、また、Well-being の向上や緑を通じたローカル経済の活性化など多角的な機能を発揮するグリーンインフラとしての活用の期待が高まっており、緑の持つ力を持続可能な都市づくりのために賢く使っていく必要があります。

そこで、本市においては、これまでも共生してきた豊かな緑を次世代へ継承し、持続可能な都市づくりを進めていくために、“市民、事業者、国・県・市のみんなで 緑をまもり、つくり、いかし、つなぐ” 取組を通じ、緑の質の向上と適正な量の保全を図りながら『みどりの力で人・まち・くらしを豊かに』していくことを基本理念として定めます。

### 《基本理念》

みどりの力で人・まち・くらしを豊かに

～みんなで まもる・つくる・いかす・つなぐ

豊かな緑を次世代に継承する都市「くれ」～